

本日の内容

- インタープリテーションとは
- インタープリテーション全体計画（IP計画）とは
- インタープリテーション全体計画の実際
- インタープリテーション計画はどのように作られるのか
- インタープリテーション全体計画の基本構成
- IP計画の基本要素「資源」を書いてみる
- IP計画の基本要素「望まれる来訪者の体験」を書いてみる
- IP計画の基本要素「テーマ文」を書いてみる
- 事例紹介「インタープリテーション計画は作成後どのように活用されたか」（雲仙観光局 瀬戸様）
- まとめと質疑応答
- 相談タイム

インタープリテーションとは？

(易しい説明)

国立公園や世界遺産のような保全地域、
観光地、ミュージアムなどにおける、
来訪者との教育的なコミュニケーション

人々が遊びに行くような場所での
教育的なコミュニケーション

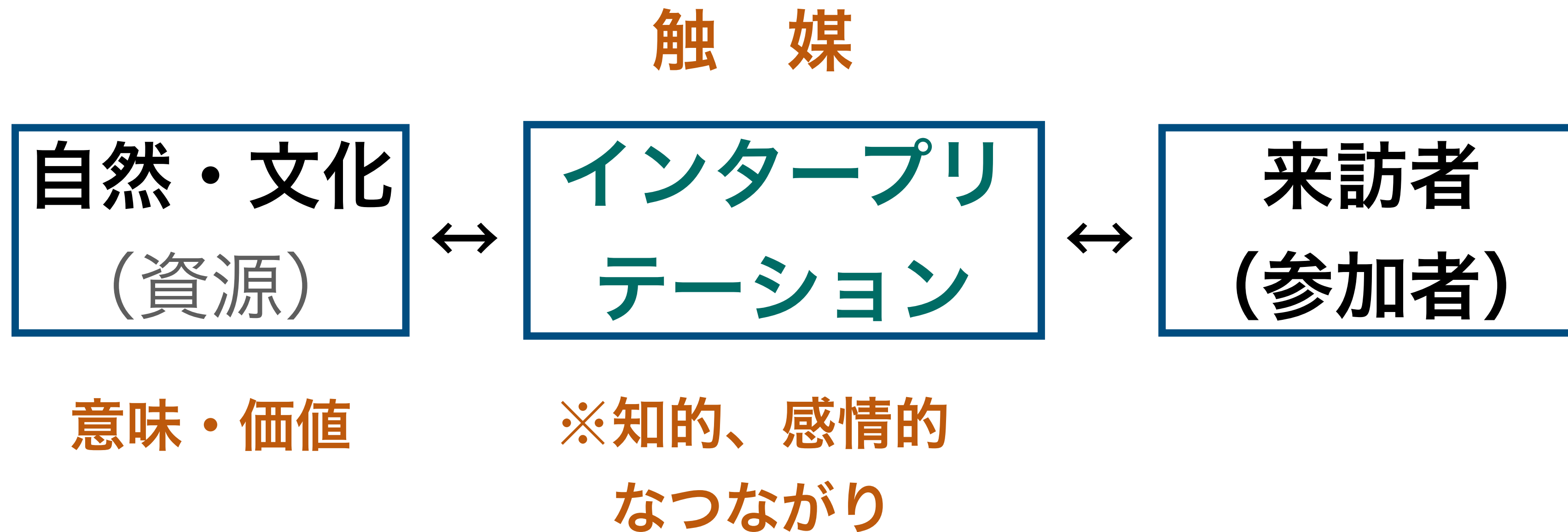


インタープリテーションとは？

アメリカ国立公園における インタープリテーションの定義

来訪者それぞれが、資源に内在する意味や価値との間に、知的、感情的なつながりをつくる機会を創出するための触媒。

※図解：インタープリテーションの定義



参加者それぞれが、資源に内在する意味や価値との間に、知的、感情的なつながりをつくる機会を創出するための触媒。

国立公園 観光地域

のインタープリテーション



ガイドプログラム

自然体験
アクティビティ

セルフガイド

景勝地／園地

(観光案内所)

ビジター
センター

案内

展示

おみやげ

印刷物

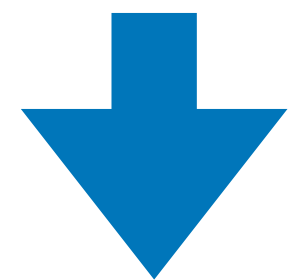
SNS

ネイチャート
レール

野外サ
イン

ミュージアム

個別のメディア
はあるが、全体
計画がない



全体計画が
必要

アメリカの国立公園でのインタープリテーションの変遷

1872年 イエローストン国立公園誕生（世界で最初の国立公園）

1916年 国立公園局 National Park Service 設立

1925年：NPSにインタープリテーション部門

（造園部門とエンジニア部門とともに）

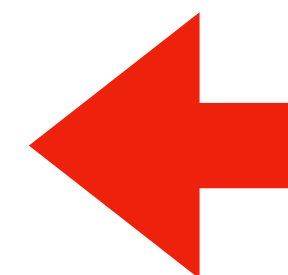
1930年代～：歴史のインタープリテーションの取り組みはじまる

1960年前後：ビジターセンターの普及

1970年：ハーパーズフェリーセンター設置

1970年代～：環境教育の取り組み

2000年前後：インタープリテーション全体計画の普及



2017年～：21世紀のインタープリテーションの検討

日本でのインタープリテーション全体計画の取り組み

- 2005年：石西礁湖教育普及計画（環境省）
- 2010年：那須平成の森（環境省）
- 2012年：東京都植物多様性保全センター（東京都）
- 2017年：ASEAN インタープリテーション計画研修（日本アセアンセンター）
- 2017年：高尾ビジターセンター（自然教育研究センター）
- 2017年：環境省-IP協会共催のシンポジウムでIP計画の専門家を招聘
- 2019年：御岳ビジターセンター（自然教育研究センター）
- 2022年：雲仙温泉地区インタープリテーション計画（雲仙観光局）
- 2023年：いくつかの地域でIP計画関連事業（環境省）
インタープリテーション計画に関する調査業務（環境省）
- 2024年：国内十数か所でIP計画事業／IP計画ガイドライン作成？

インタープリテーション全体計画とは・・・

「その場所らしさ」の探求を基礎とした、

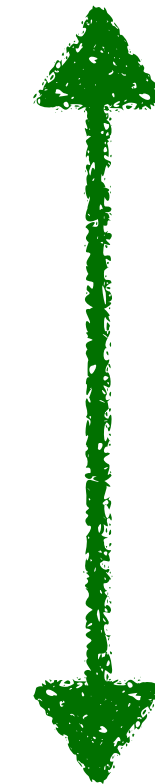
「来訪者の体験」の提案と

「ストーリー」の共有を中心とする
コミュニケーションのデザイン

IP全体計画は「どこで」作られるのか

- 施設でつくられるIP全体計画
- 地域で作られるIP全体計画
- トレールなどの単位のIP全体計画
- 国立公園、ジオパークなどのIP全体計画

狭域



広域

インタープリテーション全体計画はどのようにつくられるのか？

専門家・
事務局の
作業

情報の収集
目的の共有

文献調査
実踏調査
ヒヤリング

情報の整理、
編集、検討

(ワークショップの成果
をもとにした)
テーマや来訪者体験の整理
主要項目の素案作成

計画のデザイン
活用の検討

計画の具体案の
作成

地域の活動
ワークショ
ップ等

ワークショップ1
目的共有/チーム作り/
アイデア出し

ワークショップ2
項目検討のための
ワーク

ワークショップ3
素案をもとにした
検討

活用の検討

オプション

●講演会・説明会 /

●ガイド研修 /

●(IP計画を活用した)おもてなし研修

企画の 5 W1H
6 W2H



何のために
いつ
どこで
だれが
だれに
何を
どうやって

IP全体計画の 基本的な構成

Why (なぜ) : 使命・目的

What (何を) : 扱うモノやコト

- **重要な資源** : 地域の重要な資源のリスト。
 - **テーマ** : メッセージ/ストーリー
 - **望まれる来訪者の経験** :
ビジターにどのような経験や体験をしてほしいか。
- ストーリー
- 体験

Who (だれに) : 利用者の類型と分析

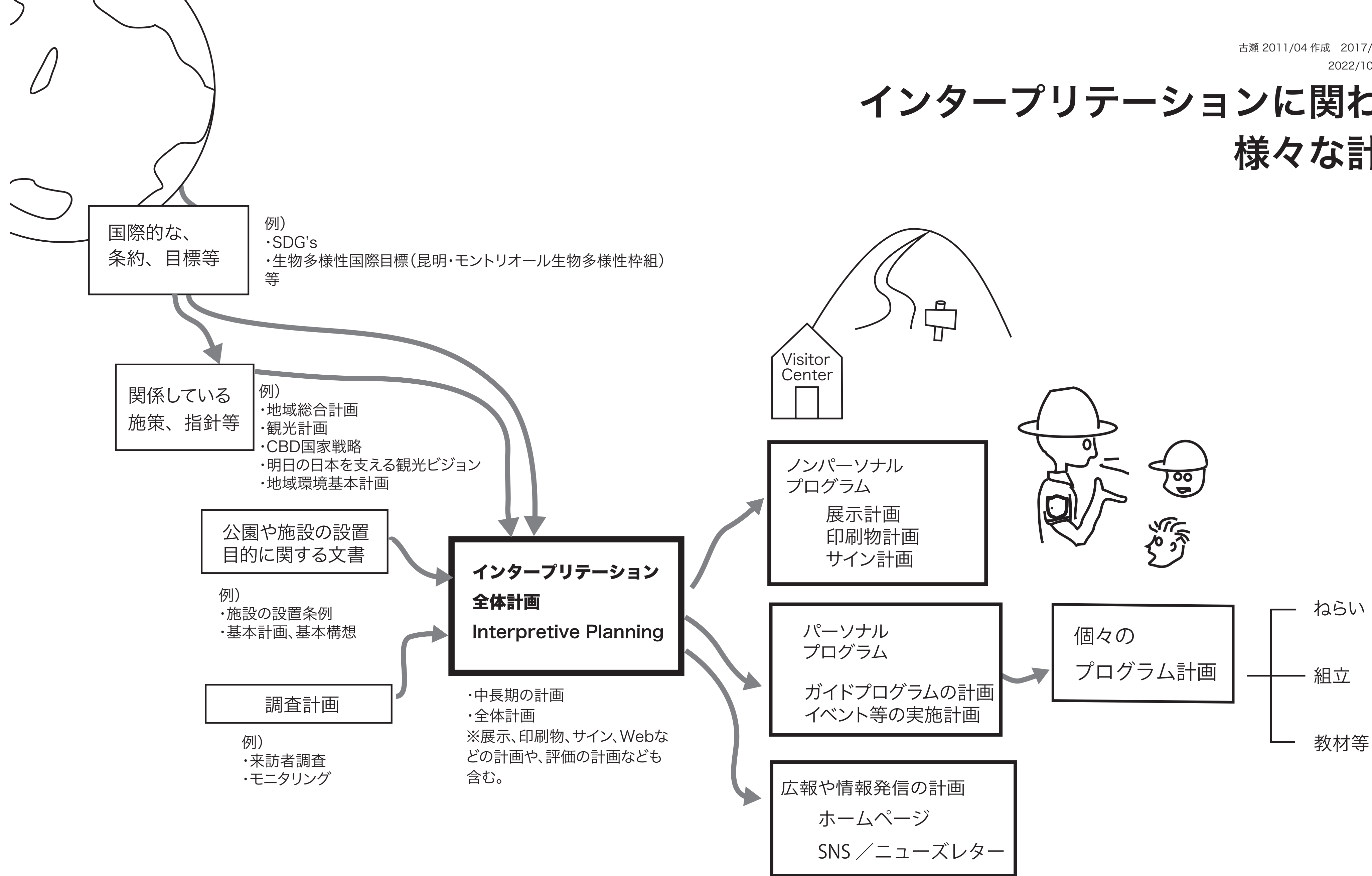
どのような利用者が来ているのか、あるいは来ていないのかを整理し、ターゲットを想定する。

When Where (いつ、どこで)

How (どうやって) : 具体的なメディア

インタープリテーションのメディア (媒体) をリストアップしする。

インタープリテーションに関わる 様々な計画



より上位 / 大きな枠組み

より下位 / 細かい段階

「資源」を書き出すときのポイント

○○な○○

○○で○○な○○

望まれる来訪者の体験

〇〇に来た方にどのような体験をしてほしいのか

事例

- 来訪者は、本来の生息地の中で野生動物を観察する。（エバーグレイス国立公園）
- 公園の物語を創り、語ることに参加する。（ヨセミテ国立公園）
- 多く小説やコミック等の作品に描かれた風景を味わい、作品のイメージと自分自身体験を重ねてほしい。（上高地）
- 親子など、異なる世代が高尾山での自然体験の楽しさを共有して、自然や環境について語る共通の基盤としてほしい。（高尾VC）

「望まれる来訪者の体験」のいろいろな切り口

切り口	事例
畏敬を感じる瞬間	世界で最も新しい山「平成新山」を間近に見て大地の営みのスケールを感じてほしい（雲仙）
喜びの瞬間	四季の風景と一緒に、旬の食べ物を味わって欲しい（雲仙）
発見の瞬間	来訪者は、本来の生息地の中で野生動物を観察する。（エバーグレイズ国立公園）
感謝の瞬間	歓迎されていると感じ、それぞれの背景や身体的能力に関係なく、公園の資源を利用することができる。（サグアロ国立公園）
つながりを感じる瞬間	親子など、異なる世代が高尾山での自然体験の楽しさを共有して、自然や環境について語る共通の基盤としてほしい。（高尾VC）

テーマ

- 「テーマ に基づいたインタープリテーション」
- 現在のところIPの基本とされている。
- テーマは個別のプログラムと全体計画を関連付けている

来訪者にに伝えたいメッセージ (Take Home Message)

来訪者と共有したい地域の「ストーリー」

テーマ ≠ トピック (話題)

(テーマはトピックではない)

テーマ ≡ メッセージ

テーマ ≡ ストーリー

トピックで構成された展示の例

展示コーナーA 「〇〇山の生きもの」

展示1：〇〇山の昆虫

展示2：〇〇山の植物

展示3：〇〇山の動物

.....

展示コーナーB 「〇〇山の地質」

展示1：〇〇山の地誌

展示2：〇〇の地層断面

.....

展示コーナーC 「〇〇山の歴史」

展示1：縄文時代

展示2：弥生時代

テーマで構成された展示の例

展示コーナーA

「〇〇山の独特な景観は、自然と人の長い営みによって創られた」

.....

展示コーナーB

「〇〇山の生き物たちは、互いに関わりながら生きている」

.....

展示コーナーC

「〇〇山の自然を守るための、多くの人たちの活動がある」

インタープリテーション 全体計画

(公園や地域、ビジターセンターなどのインタープリテーションの全体計画)

テーマ

- ・ 多様な種や個体が競争しながら関わり合い、つながっていきっている。

(事例：那須平成の森インタープリテーション計画)

ガイドプログラムの 計画

テーマ

ミズナラは多くの種類の動物に栄養を提供し森の生き物たちを支えている一方、巧みに動物を利用して、種子を散布している。

展示の計画

テーマ

キツツキは、巣穴づくり通じて他の様々な動物に「家」を提供している。生態系の『エンジニア』である

テーマの記述事例

「ヨセミテ国立公園」

ヨセミテの複雑でダイナミックな地質学的プロセスは、極めて多様で変化に富んだ景観を作り出しており、世界有数の風景と重要な科学研究の機会をもたらしています。

「東京都高尾ビジターセンター」

高尾山は、世界的に見ても大都市である東京の都心部から最も近い山でありながら、千年以上も前より、それぞれの時代の人々の思いによって守られ続け、今もなお日本有数の生物多様性を残している。